

こんにちは!

横浜市議員・自民党

[リポートNo.28]

こしいしかつ子

ー働く女性・母親の目線で地域の課題を市政に届けますー



発行元：奥石且子政務活動事務所 横浜市栄区桂町325-1-103B TEL:045-443-8166 FAX:045-443-8167

平成27年春 その2

港南台・重症心身障害児者施設 街にあたたく迎え入れてもらう安全な工事を

▶港南台4丁目に建つ「重症心身障害児者施設」については多くの方の関心を集め、私も長く関わってきました。▶横浜市では在宅の重心者の入所施設が不足しており、今後も対象者増加が予測される中、本施設へは私自身も大きく期待を寄せています。▶しかし施設の運用を近隣住民の方へご理解していただくためにも工事にともなう危険性や生活環境の悪化について、工事を発注する行政は施工者に向けた高水準の注意指示を怠ってはなりません。▶また議会と私たち自身も、そうしたことが粛々と実施されている様子を常にチェックしていくことが大切です。▶そんな中、この重症心身障害児者施設の工事現場で、3月末日現在、道路に近い手前側に土が盛りられていて、規定高の囲み塀を優に越えて外側から見る事ができるほどの高さに盛り土が積み上げられていることに気づき、急いで確認しました。▶私が見た時には、高い位置に重機が上がって土砂を叩き固めるような作業をしており、私個人としても少し怖い印象を受けました。▶ここは災害時緊急輸送路に指定されている環状3号線に面しています。もしも強い地震の影響で積み上げた土砂が崩れ出たりすれば、3号線は緊急輸送路の役を果たせなくなります。そんなことになれば工事敷地だけの問題ではありません。また強雨で土砂が流れ出せば、歩行者や道路の車輛にも危険が及びます。緊急輸送路以前の問題とも言えます。

▶建築局によると盛り土の高さは3m強、土量は約2,500m³、斜面の角度は30度で安全上支障はないとのこと。▶この施設工事に関しては先行して施工した保育園の時から、舞い上がる粉塵・土ぼこりについての懸念がありました。

▶横浜市子ども青少年局と建築局は、連携をとりながら、毎週、工事の課題を共有し、翌週の工事予定を確認する会議をもっているとのこと。万が一の惨事も起こさぬよう、今後も安全性最優先で市民に受け入れられる工事であって欲しいと望みます。

▶ここは、単に重症心身障害児者に向けた施設ということではなく、街の賑わいと安らぎを作り出す大切な拠点としても期待されているところです。近隣の方々にとっては、工事途中においても様々なご心配をお持ちのことと思いますが、安心とご理解をいただけるよう、行政とともにひとつひとつ課題の解決に力を注いで参りたいと思います。開所は平成28年の予定です。



歩道橋の上から撮影



塀の内側にも二重の土留め



重症心身障害児者施設

所在地：港南区港南台4丁目6

定員：160人

地上3階建て 延べ約13,000m²

病院棟1棟、居住棟2棟

2014年着工 2016年6月開所予定



こしいしかつ子プロフィール ●昭和43年（1968）栄区上郷町生まれ。さかえ福祉まごころの会理事長。現代美術ギャラリー代表、議員秘書、環境健康学トランスレーター（千葉大学NPO次世代環境健康学認定）として環境・医療の講演活動、福祉、長唄名取として日本の伝統文化継承、国際交流活動などを経験し、平成23年横浜市議員に当選。平成26年度横浜市会「健康福祉・病院経営委員会委員」「減災対策推進特別委員会副委員長」

こしいしかつ子HP <http://www.koshiishikatsuko.jp/> Eメール katsuko.koshiishi@gmail.com Facebook 【奥石且子】で検索、友達申請お願いします



救急車到着に時間がかかると思いませんか!? 救急車の増設要望していきます!

子宮頸がんワクチン副反応問題を受け 国民の生命をあずかる真の安心医療行政に提言

▶子宮頸がんワクチンは2009年10月に厚労省により認可。2013年4月には公費助成を行う法改正もされ定期接種となりました。しかし接種した方から重篤な副反応と思われる症状があらわれ、**同年5月23日、私が横浜市議会で初めて一般質問で採りあげ「国の方針に従うだけでなく、市が現在できること（独自調査ほか）に取り組み、国に対して意見提言を」と訴えました。**続く6月14日には厚労省の積極的勧奨一時中止がありました。

▶子宮頸がんワクチン被害の大きな問題は、副反応の重篤さと回復見込みの不明瞭さです。▶副反応は「金槌で殴られるような頭痛や全身の激痛、何時間も続く激しい不随意運動、強度の記憶障害、歩行困難、視力低下」など症状も重度も複雑多様です。▶私は被害者である子供たちとご家族に何度となくお会いさせていただき、実際の症状の様子なども目の当たりにしてきました。▶子育て中であり同じ世代の娘を持つ母としてご家族の心中は察するに余りありますが、被害者のご家族からは、一様に接種を判断した親である自分たちを責める発言が聞かれ、切なさに胸が詰まります。▶親として責任を感じるのは無理からぬことですが、国が進んで接種勧奨した現実を思うと、やはり親の責任ではないし、ましてや症状に苦しむ当人にはなんの責もない。国の対応に甘さがあつたと言わざるを得ません。▶厚労省からは「精神的なもの」との発表がなされたり医療機関の設定が遅々とするなど、被害現状を直視しない対応が続きました。

▶こうした中、私は積極的勧奨を後押しした横浜市議会として厚労省に対する正式な意見書提言を訴えるに至りました。▶医療という専門分野であり、行政・議会が無料接種等を要望してきた経緯もあって、提言書のとりまとめは容易ではありませんでしたが、粘り強く各会派との交渉を続け、2014年12月25日付で横浜市議員86人全員の賛同を得て厚労省へ提言書を提出することができました。

▶その後、国の方針が定まらないでいる間も、副反応の発症者は毎日苦しみ続けていました。治療方法も特定されず、個々の医療にかかる費用が増大し続けていく現実、たとえ独自でも支援に踏み出すべきと訴え続け、2014年5月全国でも初となった横浜市独自の医療費補助・医療支援が始まりました。2015年2月末までに15人が認定を受けています。この支援は「横浜型」とも呼ばれ、他の自治体にも少しづつ支援策が開始しています。しかし現実、これらの支援策が被害者を救済したとは言えるものではありません。

▶国民の生命・財産の保全は行政が最も優先すべきものです。そこで支障が生じたにも関わらず一度決めたからといって変更もできないような施策では、そもそも国民の幸福に資するものとは言えません。▶過去の経緯を乗り越えて次の手を打つ姿勢こそが政治全体の信頼を得る唯一の道だと信じています。

▶これは医療従事者にも等しく当てはまるもの思いから多くの医療従事者と語りあい、連携をとりながら事前承諾を得て提言書作成を進めることができました。▶そして2015年3月31日、被害者連絡会はこの問題の全面解決に向け、販売元であるグラクソ・スミスクライン社と厚生労働大臣に対して全面解決の要求書を提出することができました。この要求書についても今後結果が明らかにされて行きます。



被害者連絡会はグラクソ・スミスクライン社と厚生労働大臣に子宮頸がんワクチン問題全面解決の要求書を提出（2015年3月31日）

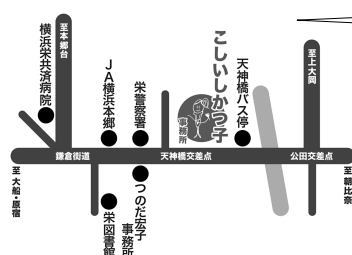
栄区民も多数利用！
港南台の歩道橋、
修理は港南土木事務所に依頼



かつ子プロジェクト 参加者募集中！

事務所までお問合せください

こしいしかつ子事務所



選挙が近づくとしても
時間を取られて大切な
市政活動が圧迫されが
ちに...でも頑張ります！

天神橋バス停すぐそば
〒247-0005
横浜市栄区桂325-1-103B
TEL: 045-443-8166
FAX: 045-443-8167

こいずみ しんじろう

小泉進次郎

4/5 栄区に来たる
本郷台駅前
15~16時